

研究

黒沢後藤家の信仰

佐伯地方の祭祀(十)

会員五十川千代見

田舎の旧家には、祖先以来ひき継がれて来た信仰生活が多く残されて...

普通一戸の農家で、信仰の対象となるものがどの位あるか...

後藤家は佐伯惟治を祭神とする富辰神社の手前で、川向この一の軒家である...

先ず家の前、屋敷にそいで中一米ほどの水路が流れている。家のものがいろいろな流し物をし易いように、一

段低くしてある洗い場の前に、水神様の小さな祠がある。

水神社 一基

惣高 四八種 凝灰岩

石祠

屋根型、一段低く彫られた正面に「水神」と刻まれ、側面に「建立 明治三十五年」とある。

本家新築の際敷地ごしらえの最中に、骨が出て来た...

祝神様 総高 三米 横 二米

水遣祠社 奥と一段高くしてあり、中に石祠が一基、凝灰岩製、高才六八種、その中に御幣が祀られている。

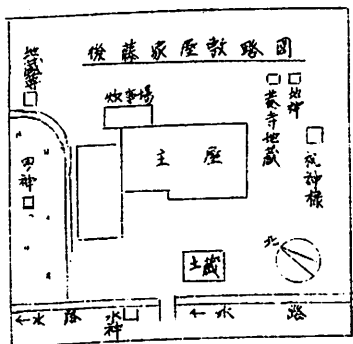
建造年代 不明 社前に大きな椿があり、春毎に花を一ぱいつける。

この祝神様について、屋敷の軒後五米ほど登ったところ...

惣高 七三種 地神 一基

石祠 凝灰岩 角石塔 建立年次 不詳

正面「宮本地神守」地神であることはわかるが、「宮本」とはいくら調べてもわからない。



荅寺地藏

総高 七四程

石杖 凝灰岩

坐像 地藏の高さ、三七程

台座正面に「荅寺地藏」と陰刻
地藏尊の前には丸い川石が数個供えてある。

家から北に四十米ほど離れた、隣部落に通じる小径のそばに、ひっそりと祀られているお地藏さんがある。

地藏菩薩

總高 四五程

石杖 凝灰岩

坐像 光背、両手で宝珠を持つ

建立年次 不詳

四時折々の供物があげられ、お盆にはその前で迎え火がたかかっている。

右の地藏尊の前、屋敷に一つく水田の中に、田の神さ祀っている。

田の神 (ソウトフ様)

石体神 二神

(この田の神については、後日誌上に表裏の予定)

以上は屋敷の外まわりにある後藤家の祀るものであるが、家の中にもいろいろある。以下座敷床ノ間から順次とりあげ、炊事場から御座に及んで見よう。先ず

床の間

掛軸 天照皇大神 中央正面へ

萱受大神

木箱の中に入れてある。高さ十程ばかり、

石鎚神社の役行者と三猿

石鎚神社祈禱御守

高さ十一程の木箱の中

金比羅神社 金比羅大権現

会

石鎚大神藏譜社大会長

法螺貝 (朱房付) 一個

錫杖 二本

鉦鈴 一個

仏壇

御位牌 二基

孫位牌

掛軸

弘法大師 御影

弘法大師 御影 二幅

四尊雲場 笠十三番

出釈迦寺

観音立像 (30寸)

仏像

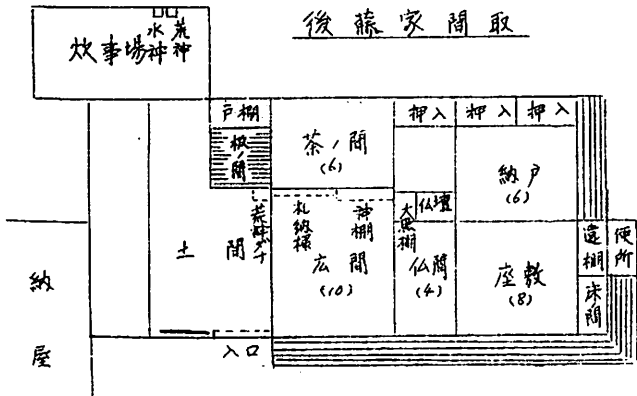
弘法大師 座像 (11寸)

子安観音立像 (14寸)

観音立像 (16寸)

以上四基

後藤家間取



御札

九州高野山 大本山 瀧光徳寺

水命之辰吉星平家朝平和火落落消
大般若波羅蜜多經理駁文 祈禱

高野山 準別格本山

大日如來 羽田山 龍護寺

御祈禱寶牘 宝盛山 延照尊院

弘法大師御自作 願王禪庵

大分県南海部郡川原木村字黒沢

回向證 二枚

為御後藤家先祖代々

四国第十番霊場立江寺
四国霊場第四十番觀自在寺

大黒像

三二種 一体

布袋像 三六種 一体

大黒像 一〇種 一体

大黒像 八種 一体

大黒像 四種 一体

御札 三ふよりちきるがはやい福だるま

うちのしんぱいいきあかりにけり

神 棚

御社 一社

大 天照皇大神宮

出雲大神御玉串

この神棚と、次に掲げる札納縁は十疊の玄間から茶の間に通ずる所の鴨居の上に並べて設けられてゐる。これは農家いすれの家でもこの様式で、札納縁の方は二尺に五尺の横長の、蔭縁の類は立で、あちこちの神社のお札

を張りつけてある。

札 納 縁

富尾宮御祈禱

八幡社太玉串

出雲大社御玉串

御祈禱御札 日光

竹生島御祈禱札 寶巖

宮祈神宮

熱田神宮

檜原神宮

宇佐八幡宮守護

太宰府天満宮

宮地嶽神社

扇森稻荷神社家内守護

靈峰尺間神社家内守護

粟崎神社大麻

早吸日女神社幸給御守

祐徳福荷神社家内安全祈禱

福神繁昌(たゞり図)

八幡社禰宜奉

八幡社御玉串

延命地藏鉦御守

鎮防火災 宇御間地藏守

火難除御守 成田山

(まだ多かつたそうだが、二か月前に整理して燃やしてしまつた由)

土間の向つて右上の棚に日荒禰縁を祭へてゐる。三空鬼神、即ち窠の神を祀つてあり、炊事場にも祀つてゐる。

五月五日の節供の粽(たまき)を供えるが、後で中のもちを食べて粽の皮(ヨシノ葉)だけをいつも供えておいて、雷鳴のほけしい時に、これを火鉢で焚けば落雷しないといわれている。
夏には霊作を祈って早苗を供える。又秋には総りの良い稲穂をささげて感謝する。

荒神 柵

御社 木造 一社

三宝大荒神 坐像(十四粒)を祀る

御札

南無三寶

陸奥前之
陸奥前之
陸奥前之

奉鎮 寔戸大神 天正火守天正香山月
火止堂令給市政
七全

三賢大荒神

土間を奥にはいると別棟になつて炊事場で、水神様と
荒神様が祀つてある

水神様には毎朝御飯とお茶湯を供える。

水神 社 (炊事場内)

水神社 一基

徳高 五〇程 凝灰岩の石祠

上部は屋根型 文字なし 建立年次不詳

荒神 様 (炊事場内)

水造の祠の中に、高さ十程ほどの荒神像を
一体祀つてある。

御札

三賢 踏原森陰
大荒神

主家に残いて鍵の手の板屋があるが、その中央部に牛
と二頭二つの部屋に飼つてゐる。いあゆる牛納屋で、そ
の入口正面上部に次のようなお札が貼つてある。

御札

愛宕將軍建命地藏菩薩(下に大きな牛の絵)

馬頭観音

牛馬(馬の絵)守護
西野野山
奉給與之院

馬鎮神社守奉給彼

石鉈神社牛馬守護

(住所 南海郡麻生町字横田)

現地踏査記

高崎山城址をたずねて

— 五月・史談会現地研修会の記 —

会 員 小 野 菜 治

高崎山城といつても、現在一般の人は、さて、どこに
あつた城かならう。ぐらゐにしか思わぬまいようである。

もつとも高崎山の嶽といえは有名で、只今では大分市
最大の観光資源として、近年急にクローズアップされ、
サル見物の観光客の多いのには驚かされませう。

しかし、この高崎もかつてはサルよりも、城郭として
有名でした。平安時代の末に安倍宗任が築城していたと
か、又鎌倉時代の初、大友氏の入国に際し、阿南惟家が
この山に籠り、大友氏に反抗した等の歴史的な伝説があ
り、其の後は大友氏の主要な山城として、正平十三年(